

## 平成26年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成26年の梅雨入りは、九州南部と四国地方で平年並だったほかは、平年より早かった。梅雨明けは、沖縄地方と奄美地方で遅かったほかは、平年並だった。梅雨の時期の降水量は、沖縄地方、九州南部と関東甲信地方で多く、奄美地方ではかなり多かったが、近畿地方と東海地方ではかなり少なく、九州北部地方と中国地方も少なかった（別紙表参照）。

その他、主な特徴は以下のとおり。

- ・奄美地方では、梅雨前線が奄美から九州の南に停滞して活動が活発だったため、降水量がかなり多かった。
- ・九州では、気圧の谷や九州の南に停滞した梅雨前線の影響で、日照時間が平年の8割程度となった。
- ・本州では、6月上旬の関東甲信地方の大雨や7月上旬の台風第8号に伴う局地的な大雨はあったものの、梅雨前線の活動は平年より弱く、降水量が少なく、日照時間が多いところが多かった。

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っている。

本件に関する問い合わせ先：

地球環境・海洋部気候情報課 03-3212-8341（内線3154）

予報部予報課 03-3212-8341（内線3127）

表 各地方の梅雨入り・明けと梅雨期間降水量

地方名	梅雨入り(注1)	平 年	梅雨明け(注1)	平 年	梅雨時期 の降水量 平年比と 階級(注2)
沖 縄	5月5日ごろ(-)	5月 9日ごろ	6月26日ごろ(+)	6月23日ごろ	126%(+)
奄 美	5月5日ごろ(-)	5月11日ごろ	7月4日ごろ(+)	6月29日ごろ	149%(+)*
九州南部	6月2日ごろ(0)	5月31日ごろ	7月16日ごろ(0)	7月14日ごろ	135%(+)
九州北部	6月2日ごろ(-)	6月 5日ごろ	7月20日ごろ(0)	7月19日ごろ	87%(-)
四 国	6月2日ごろ(0)	6月 5日ごろ	7月20日ごろ(0)	7月18日ごろ	89%(0)
中 国	6月2日ごろ(-)	6月 7日ごろ	7月20日ごろ(0)	7月21日ごろ	66%(-)
近 畿	6月3日ごろ(-)	6月 7日ごろ	7月20日ごろ(0)	7月21日ごろ	49%(-)*
東 海	6月4日ごろ(-)	6月 8日ごろ	7月21日ごろ(0)	7月21日ごろ	60%(-)*
関東甲信	6月5日ごろ(-)	6月 8日ごろ	7月21日ごろ(0)	7月21日ごろ	116%(+)
北 陸	6月5日ごろ(-)	6月12日ごろ	7月21日ごろ(0)	7月24日ごろ	88%(0)
東北南部	6月5日ごろ(-)	6月12日ごろ	7月25日ごろ(0)	7月25日ごろ	99%(0)
東北北部	6月6日ごろ(-)	6月14日ごろ	7月25日ごろ(0)	7月28日ごろ	109%(0)

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「 日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)\*：かなり遅い、(+):遅い、(0):平年並、(-):早い、(-)\*：かなり早い、の階級区分を表す。

(注2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)\*：かなり多い、(+):多い、(0):平年並、(-):少ない、(-)\*：かなり少ない、の階級区分を表す。

(注3) 階級区分は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%	33%	33%
	10%		10%
梅雨入り・明け	遅い かなり遅い	平年並	早い かなり早い
降水量	少ない かなり少ない	平年並	多い かなり多い